

博士人材のキャリアパスについて

『かつては「末は博士か、大臣か」とたたえられました。博士号は学位の最高位で、専攻した分野を研究する高い能力があることを国際的に証明します。ただ、博士号の取得を目指す大学院の博士課程の学生たちはいま、大きな不安を抱えています。』 (朝日新聞朝刊「be」2019.9.28)

本セミナーでは、文部科学省科学技術・学術政策研究所において科学技術人材に関する調査研究に携わっておられる岡本拓也総括上席研究官を招聘し、この記事にも取り上げられました博士課程修了者のキャリアパスに関する調査結果についてのご講演をいただきます。大学院生のみなさまは今後の進路の検討に、教職員のみなさまは今後の大学としての方針の検討に役立つものと考えます。みなさまのご参加をお願いいたします。

なお、本セミナーは、高度副プログラム「大学マネジメント力養成・向上プログラム」が提供する「高等教育論特講Ⅱ（担当：川端亮、齊藤貴浩）」の一つの講義として提供されます。

「就職や収入で将来不安・戸惑いの「博士号」取得」
(合田祿) 朝日新聞朝刊別刷「be」5面 2019.9.28



日時： 2019年10月31日(木) 16:20 ~

場所： 大阪大学大学院人間科学研究科東館2階
ユメンヌホール (吹田キャンパス)

講演者： 岡本拓也 文部科学省科学技術・学術政策研究所
第1調査研究グループ総括上席研究官

略歴：1991年科学技術庁（現文部科学省）入庁。2005年から2007年まで経済協力開発機構（OECD）へ出向し、科学技術分野における国際協力政策の立案業務に従事。2007年から理化学研究所横浜研究所において生命科学の振興、2009年から国立極地研究所において南極・北極観測事業の運営に携わった後、2012年からは旧ソ連崩壊に伴う大量破壊兵器技術等の拡散防止のためロシア・モスクワに設立された国際機関「国際科学技術センター」の事務局次長を務めた。2014年から文部科学省科学技術・学術研究所にて科学技術人材の調査を担当した後、2015年から信州大学大学院学術総合工学系研究科にて科学技術政策及び研究者倫理の講座運営、2017年から日本原子力研究開発機構にて国立研究開発法人評価業務を担当し、2019年5月より再び文部科学省科学技術・学術政策研究所にて科学技術人材に関する調査を担当している。

主催：大阪大学大学院人間科学研究科 附属未来共創センター
：大阪大学高度副プログラム「大学マネジメント力養成・向上プログラム」
共催：大阪大学経営企画オフィス
問い合わせ先： mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp